

尹 鉉喆 (ユン ヒョンチョル)

韓国出身／2018～2019 年度奨学生

日本体育大学 体育科学研究科 修士課程

今年で来日して 6 年になりました。6 年前の日本は桜が満開で町はすべてピンク色でした。私には桜が次々と咲き誇る姿が、弾けるポップコーンのように見えました。今でも忘れない美しい風景です。6 年前の私は、日本語が全然できませんでした。ですので、日本語を習うために、日本語学校を進学しました。しかし、私が選んだ日本語学校は大学や専門学校へ進学することを目標とする学校でした。私は速く日本語を覚えて日本の方とコミュニケーションが取りたいと思いましたが、日本語学校のカリキュラムで勉強すると 2 年になった時も正直満足するレベルまでは厳しいと思い、何をしたら楽しく日本語を覚えられるか考えました。

私は特に趣味はありませんが、体を動かすことが好きなので、大規模のジムに登録しました。日本語は話せませんでしたが、韓国で 14 年間、実業団チームでも選手生活をした私に興味をもつ人がどんどん増えました。会員やトレーナーとトレーニングをしながら、日本語学校では教わらない日常会話などを自然に覚えることができました。また、毎日同じ時間にジムへ来て、基本 3 時間以上毎日トレーニングをしていたため、私を知らない新規会員の人が私をトレーナーだと思い、たまに声をかけたりする面白いエピソードもありました。

ジムに通ってから日本語力はどんどん伸びましたが、現役の選手生活から引退して新しい事を学ぶために日本に来たのに、毎日トレーニングをするのはあまり面白くなかったです。それで、ジムで知り合った外国人の留学生から区役所で日本語講座があるという話を聞いて区役所に伺うと、各市町村の区役所に日本語講座があることを聞き、家から学校までの区間にある区役所の日本語講座は全部登録しました。午前中は日本語学校で勉強し、授業が終わったら各日本語講座に通い、最後はジムでトレーニングをしながら一日 10 時間以上は日本語を使用する環境を作りました。そのように 2 年間勉強してみると、周りからの話が聞こえ、私の話すことが相手に伝わるようになりました。それはまるで、今まで何も見ることの出来なかった盲人がだんだんと世の中の美しさを見られるようになったかのような楽しい日々でした。また、日本語講座で知り合った先生のご配慮で週末は先生の家で勉強することもでき、先生のご家族と日本文化についても深く勉強することが出来ました。現在も、定期的に先生の自宅に伺い、困っていることがあるときは先生と十分に相談をしています。もし、私が先生の立場だったら国籍も違う人のために頑張ることはとても大変なことだと思います。しかし先生は私に対していつも親身になって接して下さり、その対応に対してとても感動した記憶を今でも鮮明に覚えています。

また、韓国にいる時は運動以外のことは考えた事もなく、私は運動しかできないと思っていましたが、来日して、日本語講座で出会った先生をはじめとしたたくさんの方々からのご支援で、2 月 25 日、日本体育大学大学院の修士論文最終発表会を、資料と口頭発表共に全

て日本語で発表する事ができました。今後の私の人生で、来日してからお世話になったたくさんの方々のように、私自身が何かの助けとなり恩返しをできるように、また日本と韓国の友好関係の発展に少しでも力になれるよう努めていきたいと考えております。

2. 奨学生期間中にできたこと・将来計画

奨学生期間中にできたことは、無事に修士論文を完成したことと、博士後期課程に進学が出来たことです。

2018年4月から日本体育大学博士前期課程に入学しました。日本体育大学大学院は体育やスポーツ分野の特色が強く、他大学より外国からの留学生が少ない現状があります。しかし、学系が少ないからこそ密度の濃く、良い協力関係を築くことが出来、留学生同士で様々な情報共有ができるなどのメリットがあります。留学生の中には高い言葉の壁や金銭的な問題のため、本国で留学を決めた際と実際に留学をした時とは異なる道を歩む留学生もいます。留学生の中には、悪循環が続いて学校を退学して帰国する人や不法在留者の立場で落第する場合もしばしばあります。私の場合は坂口財団の2年間サポートをいただき、なんとか無事に修士課程を修了することができ、さらに博士課程への進学を目指すことになりました。改めて、感謝申し上げます。

修士課程の2年間は一日も休まずに研究室に来て研究した日々を送りました。たまには遊びたい時もありました。しかし、留学する前に両親と2年間で修士の学位を取ることを約束したため、諦めず、わからないことがあったら積極的に訊いたりしました。その結果1年の間に日本語やコミュニケーション能力が良くなりました。2年生に進級してからは本格的に学会に参加することを目標にし、昨年度は日本体育学会、日本体力医学会、三大学発表会、昭和大学研究会にて発表し、昭和大学研究会では初めて賞を頂きました。2年間の研究実績は、研究室の皆さんのご協力と坂口財団のサポートがあって出来ました。そして、修士2年間は自分が計画した目標は全て叶えることができましたが、修士の修了はスタート地点に立ったに過ぎません。2020年度の計画や3年間の目標、将来の展望について述べます。

私は修士1年生のときから国際パーソナルトレーナー資格証を取るために、1年間勉強しました。この資格所持者はナショナルチームのようなTOP選手の指導などが可能であり、また、国際的に通用する資格です。ですが、修士2年間は研究と資格勉強を両立するのが中々簡単ではありませんでした。今年の年末には、国際パーソナルトレーナー資格を取ることを目標としています。このパーソナルトレーナー資格を得てから、ボート競技の現場でトレーニングや経験を積み重ね、専門知識を生かして選手育成を行いたいです。

2つ目は今年、日本で行われる2020横浜国際学会や韓国の学会にも参加し、両国で積極的に発表することです。3年間の間に学位論文を発表し、日・韓選手における身体的特徴や競技力分析を研究したいと考えています。そして、分析したデータを基づき、日・韓ボート選手が2024年、パリオリンピックでメダルを獲得できるように貢献したいです。最後の目標は、活発的に研究を行い、国際ジャーナルに論文を投稿し、可能であれば日本に留学する学生を指導したいです。

最後に、2年間お世話になりました。しばらく坂口財団とは離れますが、研究に集中することの出来た財政支援をはじめ、各種のイベントを通じての日本文化の紹介やほかの奨学生との交流の機会を提供いただくなど、感謝の気持ちは忘れず、自分が目標に決めた夢を叶えて、坂口財団のスローガンである本国の懸け橋になれるように頑張ります。心から感謝申し上げます。